

表紙のことば

〈表裏表紙写真〉

山形県西村山地方事務所 小林 稔さん撮影

「ふるさとの自然の中で豊かな農村環境を求めて」

(表 表 紙)

「二ノ堰 (にのせき)」と呼ばれているこの農業用水路は中世南北朝時代 (14世紀) からの歴史に包まれながら、寒河江の豊かな自然とともに、広く市民の憩いの場として愛されています。

今から約7百年もの昔、大江時氏公 (8代)、元時公 (9代) の手により寒河江城の改築工事が行われました。この時、三の城壕に大量の水が必要となり、その方策として寒河江川に取水施設 (堰) を設け新しい水路を開削したものであります。

これが現在の二ノ堰であり、当時、寒河江の荘一帯に1千ヘクタールの美田が開発されたということでもあります。

近年までの長い沿革については飛ばして説明を続けますと、昭和27~28年には稲の冷水温障害対策として、かんがい用水を太陽熱であっためながら流下させる「温水路」が建設されました。「温水路」は水温が上昇しやすいように水路幅を広く、水の流れは浅くゆっくりと流れるように作られました。

このような「温水路」の構造上の特徴を親水面に活用するとともに

“水にかかわる自然空間の再生”

“人と水との豊かな関係構築”

“水にかかわる地域の歴史文化の継承”

を目的とし、平成元年~6年にかけて「水環境整備事業」が実施され写真でみるような景観が生れたものであります。同事業は農林水産省の補助事業として山形県が実施したのですが、本協会の方々には工事施工にあたり地質調査関係面で甚大なるご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、世はあげて不景気まっただなか。緊急経済対策が発動されたが、はたして景気は上昇するのか。社会資本の整備の必要性はあっても個人消費の拡大は期待できず、ここをどうするかだ。いづれにしても景気回復を切に願うばかりだ。

(裏表紙写真)

「東北縦断道酒田線と寒江ダムそして名峰月山」

題 字

長谷前理事長揮毫

弘太郎